

オピオイド鎮痛薬による便秘作用の解析 マウス小腸における *in vivo* および *in vitro* 薬理評価 (薬理学研究室)

運動負荷ラットにおけるMg代謝と骨格筋TRPM7の発現に関する研究 (臨床栄養学研究室)

GABA-A 受容体アゴニストによるアルコール離脱症状の緩和効果 (衛生化学研究室)

IL-17産生T細胞誘導性破骨細胞の形成に対するIL-27の作用 (薬物治療・情報学研究室)



6年生 梅本 寛之
千葉県我孫子高等学校 出身



6年生 須郷 利哉
千葉県流通経済大学付属柏高等学校 出身



6年生 奥原 千尋
山口県誠英高等学校 出身



6年生 落合 鼓
千葉県幕張総合高等学校 出身

本日は、平成24年度卒業研究発表会にて優秀な成績を収めた4名の6年生にお話を伺いました。

卒業研究発表会を終えて、「今」、何を感じますか？

梅本) 僕は入学した時から、「基礎研究」をやってみたいと思って「薬理学研究室」に入りました。僕の研究テーマは、消化管運動に対する薬剤の作用と耐性メカニズムについての研究でした。研究活動を通じて、結果が思うようでない時のへこんだ感じや、上手くいった時の喜びだったり……。そんなことの連続だったと思います。

須郷) 失敗というか、上手くいかなかったときのイライラはすごくわかる気がするな。

落合) でも、「失敗からの発見」って言うでしょ。私は失敗することも楽しく思えたかな？私は関節リウマチに関するテーマだったんだけど、最初は「ちょっとマニアックなテーマだなあ」と思ったけど、知らない世界を垣間見るチャンスになって思って、チャレンジしました。自分で選んだテーマだからこそ、「失敗」からでも得られるものは多いだろうってね。それから研究活動を通じて「自分で考えて、自分で調べて……自分が強くなった」気がします。

奥原) 私は「アルコール依存症からの離脱メカニズム」についての研究だったんだけど、振り返ると「研究」そのものよりも、一緒に遅くまで実験した仲間や先輩、そして先生方の印象が強いかな？ みんなの頑張ってる姿って、すごく自分を鼓舞させてくれたし、頑張る勇気をもらえた気がします。

梅本) 仲間が大事ってわかる気がする。研究って、行き詰ったり壁にぶつかったりして。僕は今まで「わが道を行く」タイプだと思っていたけど、研究活動を通じて「聞く耳を持てるようになった」というか、同じ分野の研究をしている仲間といろいろと話をするようになったんだ。雑談みたいなことでも、そこからアイデアが浮かんでくることもあったりして……。



破骨細胞を観察する落合さん

須郷) 研究は、確かに結果を導き出すことがゴールだけど、そのプロセスを考えるととても重要だね。仮説を立てて、それを実証するために必要な手続きを構築していくっていうさ。こういう考え方で、何も研究だけではなくて、日々の生活ってというか、あらゆる仕事について共通して言えるのかなって思いました。

卒業研究は、就職活動と時期が同じでしたが……

奥原) たまたまかもしれないけど、私たち4人とも基礎系の研究テーマだね。でもみんな、就職先はバラバラ(笑)。

梅本) 僕は今、CROを目指して就職活動をしているんだ。研究では確かに基礎系をやって、自分も望んでチャレンジしたけど、今度は「臨床も経験したいな」って思って。こういう言い方は横柄なのは分かってるけど、「やっぱりクスリは、人に効いてなんぼ」ってところがあるかなって。自分としては、「出口」の部分である治療に触れてみたいと思って。

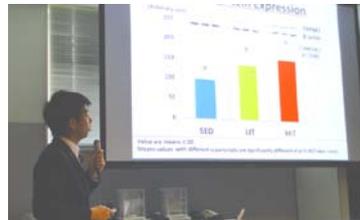


研究室主任の堀江先生と梅本くん

落合) 私は、臨床研究している友人に「基礎研究って何？マウスのためのクスリを開発するの？」みたいに言われたことがあって……へこんだりもしました。でも、純粋に興味を持って研究テーマを選んだだけだったし、逆にこの一言は、後付けかもしれないけど、基礎研究の意義や臨床への応用の可能性みたいなことを、自分なりに考えるきっかけを与えてくれた出来事でもありました。これって私にとっては大きなことで、一つのことを直線的だけに視るだけではなく、多様な角度から物事を考える習慣がついたのかなって。私は調剤薬局に就職を決めたんだけど、実は医療コンサルティングもやってる会社で、一つの結論に至るためにさまざまな要因を多角的に検討するというコンサルティングに興味を魅かれたんだ。

須郷) 僕はMRになります。正直、卒業研究のテーマを選ぶよりも、就職進路を決める方が優先順位高かったんだ。実際、5年生のときって「実務実習」もあって、卒業研究しながらの就職活動はとて大変だったよ。でも、落合さんが言うように、「考える」機会は本当に多かったように思うよ。僕の場合は限られた時間の中で、研究のことも就職のことも、どれだけ「深く」、「広く」、「速く」考えることができるかって。こういう日々を過ごせたことで集中して事柄に向かいあう習慣が身についたと思う。これって、就職活動にすごくポジティブに働いたと思うよ。

奥原) 効率的な時間管理って、まさに研究から学んだことかもしれない。卒業研究に、就活や実習とホントあっという間の時間だったけど、自分が今やるべきこと、やらなきゃいけないことについて、優先順位が付けられるようになったというか、効率的な時間管理ができるようになった気がする。私も就職は、調剤薬局なんだけど、私の場合は人とのコミュニケーションが好きで……。研究室では4年生から6年生が一緒に時間を過ごし、また指導して下さる先生方との時間もあって、「小さな社会」を経験できたってことも、これからの就職で、絶対プラスになるんだろうなって思えました。



発表中の須郷くん



奥原さんと研究室の同期メンバー

今、そしてこれから……

梅本) 僕は今でも研究は続けているんだ。もちろん国家試験の勉強もしっかり準備しながらだけど、7月には日本薬理学会の関東支部大会でも学会発表する予定なんだ。

須郷) 僕も9月に岐阜で開催される体力医学会で発表する予定。学会は初めての経験だから今から楽しみなんだ。他の大学・学部の学生の発表も気になるし、自分の「幅」を拡げられる経験にしたいな。

落合) 2人ともすごいね。私は今年中の学会への参加はないけど、就職してからもいろいろな学会には参加したいと思ってる。自らの研究成果の発表の場ではないかもしれないけど、いろいろな情報を集めるための場としてね。

奥原) まずは、しっかりと国家試験受からなきゃね。研究活動を通じて、「追求すること」っていうのか、「なんで？」ということを手で意識するようになったから、これまでの「ただ勉強する」だけではなく、身につけた知識を将来、薬剤師として「どう活かせるのか」をイメージしながら勉強したいと思います。

「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

第97回 薬剤師国家試験 **合格率 97.0%**

平成23年度卒業生 **就職率 99.3%**

城西国際大学 20周年記念 薬学部特別授業

地域医療の将来像

慢性疾患の重症化防止のために薬剤師は何ができるか？



World Café Style

超高齢化がすすむ医療過疎地域の社会を維持するために、医療福祉人材・行政・住民の理解と協力など、『地域総力戦』が不可欠であることを学びました。実務実習で直面する現実の課題に対し、この日の討論のように様々なアイデアを出して、克服していくことが期待されます。

『ワールドカフェ・スタイル』とは、「人々がオープンに会話をし、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でそそユニークなアイデアは生まれる」といった考えから、参加者が自由な発想で討論するスタイルです。

卒業研究発表(6年生)



全ての学生一人ひとりが口頭・ポスターのいずれかの形式で自らの研究成果を発表しました。発表後には活発なディスカッションが行われました。



白衣授与式(5年生)



今年で3年目の「6年制長期実務実習」が5月より始まりました。

将来の自分を見つめて、ただいま実習中

2012年4月開設 **大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程**

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>